

(別添3)

【結城市】
校務DX計画

【現状】

結城市では、令和6年からペーパーレス化に取り組んでおり、一定の成果は出てきているが、「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果、クラウドツールの活用、FAXでのやり取りの廃止、押印の見直し、校務支援システムへの名簿情報等の不必要な手入力作業の一扫が一部で進んでおらず、校務の効率化・完全なペーパーレス化へは課題が残っている状況である。また、ネットワーク環境についても校務系及び学習系が分離運用されている状況である。

「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言を踏まえても、これらの課題について早急に解決に向けて検討が必要と捉えている。

【課題】

(1) クラウドツールの未活用

結城市では、「Microsoft365」等のクラウドツールを活用した学習等が少しずつ進んでいるが、校務としては生徒の欠席・遅刻等に関する保護者とのやりとり、学校からのお便り等、学校と保護者を結ぶクラウドツールの活用が進んでおらず、電話対応や書類の印刷・配布など教職員の負担となっている。

(2) FAXでのやり取り・押印の見直し

教育委員会と各学校や事業者とのやり取りにおいて、一部業務については、FAXを利用したやり取りが慣行として行われている状態である。

また、職員が学校へ提出する事務手続きにおいて責任者による押印等が必要であり、「押印待ち」といった無駄な時間が発生し、押印待ちによる残業等も発生している状況である。

(3) 校務支援システムへの不必要な手入力作業の一扫

結城市では、学習用端末で管理している情報について、必要に応じてUSBを使い校務用端末へデータ移行している状況であり、余計な業務が発生している状況である。また、USBを使用する際の事務手続きによる業務負担の増加、USBの紛失リスクといったことも懸念される。

(4) 校務システムの利用環境の現状

専用回線となっており、赴任している学校のみで利用できる環境であり、自宅や出張先での校務処理ができない状況である。

【取組方針】

現状と課題から結城市では、下記の通り校務DXの推進を図っていく。

(1) クラウドツールの整備・活用

校務支援アプリ等を活用し、学校からのお便りなどの印刷・配布の廃止を目指す。それにより、教職員の日常業務の負担軽減を図ると共に、ペーパーレス化を推進していく。

(2) FAXでのやり取り・押印の見直し

FAXは原則使用しない方針とし、緊急連絡やFAXの方が効率的な場合を除き原則FAXでのやりとりの廃止に向け継続的に働きかけていく。

押印については、無くせないもの、無くせるもの又は代替できるものを区別し、押印の文化をなくしていく。県や教育委員会の制度によるものの場合、関係者と協議して見直しを図っていく。

(3) 校務支援システムへの不必要な手入力作業の一掃

校務系と学習系のネットワークを統合し教職員の端末を1台にすることで、USBを使用したデータ移行などの業務負担を軽減する。また、USBを廃止することで、紛失による情報漏洩リスクや情報の散在による漏洩リスクの軽減を図る。

(4) 次世代の校務システムの導入検討

結城市では、校務支援システムの次回更新を令和10年度に予定しており、学校以外の場所でも利用可能なクラウド環境の見直し、また、校務系と学習系との統合型校務支援システムの導入にむけ検討していく。